

山形県立図書館報

No. 103

山形県立図書館 〒990-0041 山形市緑町一丁目2-36「遊学館」内 TEL (023)631-2523



館長からのメッセージ

より地域の「役に立つ」図書館へ

県立図書館では、県民の皆様が最寄りの図書館で図書や資料を気軽に借りることができるよう、これまで県内の公立図書館・公民館図書室との間の相互貸借や蔵書検索のネットワーク化、さらにはインターネットを利用した予約システムの整備などを進めてきました。

また、広く読書を普及するとともに、皆様が必要とする図書・資料を適時適切に提供できるよう、図書の企画展示やレファレンス（調査相談）の充実等に努めてきました。

これらの取組は、当館を利用される皆様の利便性の向上に少なからず効果があったものと思っています。

ところで、近年、社会の変化に対応するため、さまざまな図書館改革の提言が行われる中で、図書館の役割についての考え方も、以前とはだいぶ違ったものとなってきています。

従来の貸出重視の図書館サービスに加え、現在では、地域課題の解決や地域の振興に役立つ資料と情報を積極的に提供し、図書館の利用拡大を図っていくという、いわば、「静」の図書館から

「動」の図書館への転換が求められています。

このことも踏まえ、本年3月から稼動した新しい図書館情報システムは、貸出・予約等の動きがリアルタイムでわかるようにし、また必要な図書・資料をより容易に検索できるよう改善を図りました。

同時にホームページについても、各種データベースや関係機関・団体のホームページを容易に参照できるようにするなど、必要な情報が収集しやすくなるように改善を行ったところです。ホームページは、情報提供の最大の手段として、一層の充実を図っていきます。

今後とも、県民ニーズや事業効果等の把握に努めながら、時宜を得た企画展示や情報提供を行い、県民の皆様にとってより「役に立つ」、利用しやすい図書館となるよう、職員一同努力してまいります。

利用したことのない皆様も、ぜひ機会を見つけて来館されるか、又はホームページを一度ご覧になってください。

（館長 佐藤 禎介）

館長からのメッセージ.....	1	お知らせ.....	6～7
県立図書館わくわく100歳.....	2～3	利用者からの声 Q&A こんな時には.....	7
県立図書館のお宝紹介.....	4	最近のレファレンスから.....	8
県立図書館の利用状況.....	5	交通案内（県立図書館へのアクセス）.....	8

県立図書館わくわく100歳

県立図書館は、お陰をもちまして平成22年に開館100周年を迎えました。そこで、この節目を記念するとともに、これを契機として、更に県民に親しまれる県立図書館を目指そうというイベントを、平成22年11月6日から14日までの間、県立図書館のある遊学館を会場に催しました。テーマは「おいでよ図書館へ」。

県立図書館は、1910年（明治43年）、東宮行啓記念三大事業の一つとして山形市七日町地内（現在の県民会館付近）に開館しました。現存する当時の写真をみると、ルネッサンス式の威風堂々たる建物であり、図書館建設に対する当時の人々の意気込みが偲ばれます。

しかし、この図書館は、開館から僅か1年足らずで、山形市北部地区を襲った大火により、県庁舎や地方裁判所庁舎など多くの公共施設とともに全焼してしまいます。同時に、多くの蔵書も焼失してしまい、焼失を免れた蔵書は、たまたま巡回中の590冊だけであったとの記録が残っています。

県立図書館が再建されたのは、焼失から3年後の1914年（大正3年）。同じく大火で焼失した県庁舎より2年程早い再建でした。

その後、1945年（昭和20年）から52年までの7年間進駐軍に接收されるなど、波乱に満ちた歴史を歩み、1990年（平成2年）に最初の図書館から数えて4代目の建物となる現在の図書館が開館しています。

この間、焼失等の一時期を除き連綿として県民の学習や社会教育の拠点施設として活用され、開館当初の1910年に5,150冊だった蔵書は74万冊を超え、年間利用者数も1万4千人から20万7千人へと飛躍的に増加しています。



開館100周年記念事業の初日には、開会行事に続き絵本作家のつちだよしはるさん（鶴岡市出身）によるスペシャルトーク、つちださんの代表作「きいろいばけつ」の上映会、県民が日ごろ立ち入ることのできない“ミステリーゾーン”閉架書庫探検、子どもたちが一人ずつステージ上で絵本の読み聞かせに挑戦する「本を読んで聞かせてよ」など、多彩な記念企画が行われました。

「親子で親しむ絵本と図書館」と題したスペシャルトークでは、つちださんが実践している県内の公共図書館や小学校等との数多い交流を通しての思いを、ソフトな口調でユーモアを交えながらも熱く語っていただきました。“人生の中で最も読書機会に恵まれる時は小学生の時代。この時に読書好きになるか否かが当人の人生を左右するといっても過言ではない”、“図書館の施設や設備には大差はない。要は人。図書館に従事する人が、どれだけ真剣に利用者と向き合っているかで図書館間に大差が生じる”と、幼児期・児童期における読書の大切さや学校図書館・公立図書館に勤務する職員の取組姿勢の重要性等を強く訴えるスペシャルトークでした。

また、記念事業期間を通して、“高橋由一石版画”や“最上家在城諸家中町割図”などの県立図書館の宝物を展示する「県立図書館歴史・収蔵品展」や“おじいちゃんのカブづくり”など、つちださんの代表作の原画を展示する「つちだよしはる原画展」、荒井良二、ましませつこ、最上一平などの県出身絵本作家の絵本を展示する「県出身絵本作家の絵本展示」などの記念展示会を催しました。

来館者の中には、県立図書館に骨董品や絵地図などの本以外の収蔵品があることを初めて知った方も多く、興味深い様子で見入っていました。

（運営企画専門員 富樫 秀幸）

県立図書館100年のあゆみ

西暦(和暦)	山形県立図書館の歴史	山形県内外の出来事
1910(明43)	初代 皇太子殿下山形県行啓の記念事業とし「行啓記念山形県立図書館」開館(建坪:119.3坪・蔵書:5,150冊)	山形市に初めて電話が開通(明40) 朝鮮総督府を設置(明43) 白瀬中尉、南極探検に出発(明43)
1911(明44)	山形市北部大火により建物全焼 県庁、市役所、地方裁判所なども焼失	
1914(大3)	二代目 焼失した館舎を再建(建坪:143.5坪・蔵書:7,013冊)	ドイツに宣戦布告(第一次世界大戦参戦)(大3)
1916(大5)	第11回全国図書館大会、山形県開催	県庁舎、県会議事堂(現在の文翔館)完成(大5) 第1回国勢調査を実施 県人口96万8,925人(大9) 関東大震災(大12)
1935(昭10)	県出身者の著書を集め県人文庫を設置	山形県図書館協会を設立(大14) 日中戦争始まる(昭12) 真珠湾攻撃、太平洋戦争始まる(昭16)
1945(昭20)	遊駐軍館舎接収により、婦人会館に間借り移転	日本の無条件降伏、終戦(昭20) 日本国憲法施行(昭和22)
1950(昭25)	「山形県立図書館」に改称 図書館法施行 山形県立図書館条例制定	
1951(昭26)	移動図書館を実施(21カ村を巡回)	
1952(昭27)	図書館舎の接収解除	平和条約発効、主権回復(昭27)
1953(昭28)	本館に復帰し閲覧再開 館報「図書館だより」発刊	
1957(昭32)	山形県人文庫を再興	
1961(昭36)	自動車文庫やまなみ号巡回開始(～昭和57年まで)	
1962(昭37)	三代目 新築・開館(県民会館と併設) (図書館面積:2,212㎡・蔵書:60,888冊)	オリンピック東京大会(昭39)
1969(昭44)	山形県図書館連絡協議会発足 (公共図書館、大学図書館等の連携)	冬季オリンピック札幌大会(昭47)
1973(昭48)	親子読書文庫を設置(～昭和57年まで)	
1976(昭51)	協力車の運行開始(やまなみ号を転用)	県庁新庁舎、現在地に完成(昭50) NHK朝のテレビ番組「おしん」ブーム(昭58)
1990(平2)	四代目 移転、新築・開館(遊学館に併設) (図書館面積:6,085㎡・蔵書:300,188冊) コンピューター・システム導入 開架資料の閲覧自由化	
1992(平4)	「山形県公共図書館相互貸借規程」等の制定	べにばな国体開催 山形新幹線開業(平4) 山形県郷土館(愛称「文翔館」)開館(平7) 冬季オリンピック長野大会(平10)
2002(平14)	県立図書館ホームページ開設 ネットでの蔵書検索開始	第53回全国植樹祭開催 東北中央自動車道「山形上山～東根間」開通(平14) 国民文化祭・やまがた2003開催(平15)
2006(平18)	カウンターにすべて司書有資格者を配置 休日開館を拡大(年末年始、特別整理日等を除く全祝休日開館)	
2007(平19)	県内公共図書館横断検索システム運用開始 インターネット予約貸出システム運用開始	
2010(平22)	開館100周年記念事業実施(蔵書:742,568冊)	

も が み け ざ い じ ゃ う し ゃ か ち ゅ う ま ち わ り ず
県立図書館のお宝紹介 「最上家在城諸家中町割図」

最上氏時代（約400年前）の山形城下絵図の写本で、当時の様相を知る貴重な資料です。

本図は手写しの写本ですが、原図の所在及び作者等は不明です。写した絵師については、図中に「山形藩藤原守春 写之」と落款がありますが、詳しくはわかっていません。

また、写された年代や目的についても、秋元氏入封時（1767）に荒廃していた城郭の修築に備えて写されたとする説や松平忠弘が城主の時代（1648～1668）に写されたとする説等がありますが明らかではありません。

本図の原図については、これまでの通説として、最上家改易前夜から改易時にかけての元和2年（1616）から元和8年（1622）の間に作成されたもので、描かれている城郭及び城下町の形態は、最上義光によって原型が完成されたものであり、作成の目的は改易の際の引継ぎのため等とされてきました。

しかし、近年、本図より記載内容が古いとみられる最上時代の城内絵図が発見され、その図との比較研究から上記の説が見直されつつあります。

それによれば、本図中には、二の丸の周辺や混み入った民家の間に防火対策とみられる空き地が配置されていること、火を扱う職人町が馬見ヶ崎川を隔てた地域に置かれていること、通りごとにその長さや両側の屋敷数が記載されていること等々から、本図の原図は、元和3年（1617）の大火



（縦233.4cm × 横184.3cm）

の後に、防火対策を念頭に入れて構想された最上57万石城下の壮大な都市計画図であり、その計画に従い家中（家臣団）の居所を定めつつある段階の図であろうと推察されています。

（調査相談主査 神藤 幸子）

参考文献：「日本の市街古図—東日本編—解説」「最上時代山形城下絵図」「山形県城郭古絵図展図録」「新出史料の山形城下絵図について」「山形城下町のはじまり」ほか

県立図書館の利用状況

入館者・登録者・館外貸出冊数

(各年4月～12月)

区分	開館日数 (日)	入館者数(人)		新規登録者数(人)		館外貸出資料数(冊)	
		総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均
21年	221	146,686	745.2	2,133	9.7	142,268	643.7
22年	222	169,382	763.0	2,067	9.3	138,955	625.9

平成22年貸出ランキング

平成22年中に県立図書館において貸出の多い順に集計しました。

一般和書

(平成22年1月～12月)

順位	書名	著者	出版社
1	流星の絆	東野圭吾	講談社
2	告白	湊かなえ	双葉社
3	食堂かたつむり	小川糸	ポプラ社
4	1Q84 BOOK2<a novel> [7月-9月]	村上春樹	新潮社
5	英雄の書 上	宮部みゆき	毎日新聞社
6	蝶々囁々	小川糸	ポプラ社
7	1Q84 BOOK1<a novel> [4月-6月]	村上春樹	新潮社
7	新参者	東野圭吾	講談社
9	英雄の書 下	宮部みゆき	毎日新聞社
9	東京島	桐野夏生	新潮社

ヤングアダルトおすすめ本

県立図書館では、1階フロアにおいてヤングアダルト(中・高校生)おすすめ本を展示しています。その中で貸出の多い図書を紹介します。

書名	著者	出版社
英雄の書 上・下	宮部みゆき	毎日新聞社
未来をかえるイチロー262のNextメッセージ Ichiro's message since 2005	イチロー	ぴあ
世界がぼくを笑っても	笹生陽子	講談社
カラフル	森絵都	理論社
夢をかなえるゾウ	水野敬也	飛鳥新社
たまごを持つように	まはら三桃	講談社

職場体験 中・高校生おすすめ本

県立図書館に職場体験に来られた中・高校生のおすすめの図書を紹介します。

書名	著者	出版社
秘密が見える目の少女	リーネ・コーバベル	早川書房
100万回生きたねこ	佐野洋子	講談社
ふしぎの国のレイチェル	エミリー・ロッダ	あすなろ書房
ふしぎな木の実の料理法	岡田惇	理論社
デモナータ	ダレン・シャン	小学館
ねらわれた星	星新一	理論社

お知らせ

平成23年度の企画展示をお知らせします

● 読書週間企画展

春のこどもの読書週間企画展は「親子で楽しむ！季節の行事」（平成23年4月19日～5月14日）です。季節の行事について書かれた絵本や、山形県内の年中行事に関する郷土資料を通し、親子で行事を楽しんだり、親から子へ伝えていくきっかけとなるような展示を行います。

秋の読書週間企画展では「2010～2011県内出版物展」（平成23年10月18日～11月13日）として、前年10月から1年間に出版された県内出版物や、県人・県内関係者の著作物を展示し紹介します。また、秋の読書週間特別展として今年が記念の年にあたる県人を紹介します。



● テーマ別企画展

一般向けは、宇宙や地球といった大きな世界、私たちの生活に関わる身近な世界、そして学問の世界を「いろいろな視点からの発見」をテーマとして、何かを見つけるヒントとなるような本をご紹介します。そして、9月の「敬老の日 読書のすすめ」、3月の「若い人に贈る本」「2011年文学賞等受賞作品」とあわせて、年間5回の展示を行います。

また、児童向けは、「きせつの絵本」がテーマです。

「なつの絵本」「なつやすみ特集」「あきの絵本」「ふゆの絵本」「はるの絵本」の5回の展示を一般向けと同時期に行います。

図書館情報システムを更新しました

平成23年3月より図書館情報システムが新しくなり、次のような改善、機能強化を図りました。

● 貸出・予約状況をリアルタイムに確認することができます。

インターネットサービスと館内サービスとを一元管理することにより、貸出や予約などの状況が図書館ホームページや館内利用者端末を使ってリアルタイムに確認できるようになりました。

● 蔵書の検索機能が向上しました。

これまで、書名や著者といった特定の項目での掛け合わせで検索を行っていましたが、内容紹介など全ての書誌情報に対して検索ができるようになりました。また、図書分類からの絞り込み検索など、便利な検索機能が追加されました。

● 予約機能が向上しました。

これまで、資料1件ごとに利用者番号とパスワードを入力する必要がありましたが、カート方式を採用し、複数の資料をまとめて予約できるようになりました。

また、携帯電話用の検索システムからの予約もできるようになりました。

● リライトカードを導入しました。

利用者カードをリニューアルし、リライト式カードを導入しました。リライトカードとは「書き換えるカード」という意味で、これまでレシートで発行していた貸出情報が利用者カード内に表示されるようになり、借用本の書名や返却期限が利用者カードで確認できるようになりました。

便利なサービスをご案内します

県立図書館では、直接来館できない方も県立図書館の図書資料をご利用いただけるよう次のサービスを提供しておりますので、ぜひご利用ください。

●インターネット予約貸出

ご自宅のパソコンや携帯電話から図書資料を予約し、県立図書館やお近くの公共図書館、公民館図書室で資料を受け取ることができるサービスです。

●図書資料宅配サービス

県内にお住まいの方を対象に宅配便を利用し、図書資料を直接ご自宅に有料で送付するサービスです。申し込みはホームページ、封書またはFAXにより行えます。宅配料金は重量により異なりますが、10kgまで片道210円となります。

※ サービスの詳しい内容については、ホームページをご覧ください。

新しい事業を計画しています

県立図書館では、平成23年度の新規事業として、絵本をきっかけとし「本好きな子ども」の育成や読書活動の推進を図ることを目的に、次のような事業を計画しております。

●絵本原画展

県出身絵本作家の原画や絵本を展示することにより、子どもと絵本とのふれあいを促進します。

●手作り絵本コンクール

手づくり絵本の創作を募集して審査を行い、優秀作を表彰するとともに発表会を開催する予定です。また、優秀作は製本して県立図書館の蔵書として活用します。



利用者からの声 Q&A こんな時には○○○○○

Q1 老眼鏡を忘れました…

A1 各カウンターに老眼鏡と拡大鏡（ルーペ）をご用意しております。カウンターにお問合せください。

Q2 電子辞書を使いたいのですが…

A2 総合カウンターと2階調査相談カウンターで電子辞書を館内貸出しています。カウンターにお申し込みください。

Q3 図書館の本をコピーしたいのですが…

A3 県立図書館の資料のみ著作権法の範囲内で複写することができます。
1枚（白黒のみ）10円です。

Q4 古い新聞を読みたいのですが…

A4 2階の新聞コーナーでは、所蔵している新聞のうち最新号を除く過去2年分をご覧いただくことができます。それ以前の新聞については、閉架書庫からお持ちするかマイクロフィルム等をご案内します。
古い新聞には欠号もありますので、2階調査カウンターにお問合せください。

Q5 利用カードを忘れてしまったのですが、借りることはできますか？

A5 利用カードを忘れても、貸出はできます。各カウンターに「仮貸出票」という用紙がありますので、そちらに記入してカウンターにお申し込みください。

最近のレファレンスから

Q 「最上川舟唄」は元になっている唄があると聞きました。何の唄ですか。

A 現在広く知られる「正調最上川舟唄」が作られたのは、比較的新しく、昭和11年のことです。それまで最上川本流流域の各地で唄われていた舟唄のうち、左沢地方の唄を編集し直し作られました。

左沢地方で唄われていた舟唄は、もともと、唄と掛声が別々のもので、唄は港町の酒席などで唄われていた酒田追分が元唄となっていて、掛声は、船頭達の労働の中から生まれたものでした。新内くずしが入り哀調味の漂う曲調であったその舟唄を、大江町左沢の渡辺国俊氏と後藤岩太郎氏が、男性的で勇壮な形に作り直したのが、現在の「正調最上川舟唄」です。

なお、酒田追分は越後追分、江差追分などが舟運の往来により伝えられ変化したものと言われ、さらに、追分自体は、信濃の浅間山麓が発祥の地で、その宿場町で唄われた馬子唄から発生したと言われています。

参考文献：「最上川舟唄碑誌」「酒田文化出會学」「町勢大江」

「山形県寒河江市『中郷の民俗』『天童風土記』『誰か故郷を』『俳諧と茶道理念』ほか

Q 山形県における明治期のリンゴ栽培について知りたいのですが。

A 山形県でリンゴ栽培が始まったのは、明治8年頃で、現在リンゴを栽培している各県のうちでは比較的古い方になります。明治20年代、県により品種名の名称が違って、山形県では、「祝」は「ヌ印」、「紅玉」は「チ印」、「国光」は「キ印」などとイロハ四十七文字で統一したことがありました。明治30年代、栽培技術特に病虫害の防除に対する技術が未熟であったため、綿虫の発生により一時壊滅に近い打撃をうけ、館山地区（米沢）ではリンゴに見切りをつけた栽培者の多くが桜桃を植えるようになりました。明治末には、ある程度病虫害に対する防除技術が進歩してリンゴが大量に生産されるようになり、東京や関西の市場へ出荷されるようになりました。

参考文献：「山形のリンゴ」「朝日町りんごの歴史」「館山りんご百年のあゆみ」「米沢市史 近代編」「林檎の里館山」

交通案内(県立図書館へのアクセス)

バス：山形駅前から

- ・「沼の辺行き」乗車。
遊学館前下車、すぐ。
- ・「市役所前経由路線」乗車。
市役所前下車、徒歩約6分。

タクシー：山形駅前から約10分。

車の方：・県営駐車場をご利用ください。

- ・図書館をご利用の方は最長2時間まで無料です。
- ・おいでの際とお帰りの際の2回、1階正面玄関左側の遊学館総合受付に駐車券をお出しください。



■山形県立図書館のご案内

〒990-0041 山形市緑町1-2-36

TEL 023-631-2523 / FAX 023-625-6520

ホームページ <http://www.lib.pref.yamagata.jp/>

開館時間 9:00~19:00

休館日 月曜日、毎月の第3日曜日、年末年始、特別整理期間